高圧ガス小委員会における当面の検討課題等

検討項目	個別検討事項	検討課題等	検討スケジュール(予定)
1. 自然災害への対応	1)東日本大震災への対応	○球形貯槽の火災・爆発を踏まえた耐震設計基準の見直し等	○球形貯槽のブレース(いわゆる筋交いで、交点を溶接したタイプ)の強度やそれを踏まえた球形貯槽の耐震性能について再評価を実施し、補強の方法等を検討。 ★小委(11/28):検討状況の確認 ★小委(1-2月):検討の方向性の確認 ★小委(3-4月):検討結果の確認
		○事業所の津波への対応(危害予防規程の規範の検討)	○高圧ガスの第1種製造事業所に策定が義務づけられている危害予防規程において、津波によりガス設備が破損、流出した場合の事業所内外への被害想定、被害低減策等、従業員の避難、高圧ガス設備の安全な停止、高圧ガスの封じ込め、ガスの廃棄等、また、容器及びローリーの流出対策、流出した容器回収方法等への対応を図るための危害予防規程の規範の改定方法等を検討。 ★小委(11/28):検討状況の確認 ★小委(1-2月):検討の方向性の確認 ★小委(3-4月):検討結果の確認
		○事業所の津波への対応(津波による高圧ガス設備への影響の評価)	○貯槽等の設備の破損・流出等による影響が大きい設備を優先して、津波の波力、浮力及び漂流物による高圧ガス設備への影響を評価するための手法を新たに検討。 ★小委(11/28):検討状況の確認 ★小委(1-2月):検討の方向性の確認 ★小委(3-4月):検討結果の確認
	2)南海トラフ等への対応	○南海トラフ等への対応	○内閣府による南海トラフ等の地震の想定を踏まえて検討を実施予定。 ★小委(11/28):検討状況の確認 ★小委(1-2月):検討の方向性の確認 ★小委(3-4月):検討結果の確認
2. 産業事故、保安義務違反への対応	高圧ガスの事故の発生状況と大企業による重大な事故、保安義務違反等への対応	○高圧ガスの事故の発生状況とその対応	○高圧ガス保安法に係る事故件数が増加。特に、相対的に社会的影響の大きいA級、B級事故も増加傾向。 ★小委(11/28):事故・法令違反の報告 ★小委(1-2月):課題、対応の方向性の検討
		○大企業による重大事故、保安義務違反への対応	○昨年以降、日本を代表するような企業において、死亡を伴う事故や保安義務違反が発生。当該企業の事故等の原因分析を行うとともに、高圧ガス保安法に基づく制度の見直し、自主保安の促進等の対応を検討。 ★小委(3-4月):制度見直しの方向性、自主保安促進策等のとりまとめ、個別の事故対策の確認
3. 時代が要請する新たな課題への対応	1)2015年の燃料電池自動車・水素ステーション普及開始に向けた規制の見直しへの対応	○規制の再点検に係る工程表の見直し	○工程表については、進捗状況を踏まえ、毎年、見直しを実施。 ★小委(11/28):状況の報告
		○工程表等に基づいた規制の見直し(例示)	
		・82MPa水素スタンドの技術基準の作成	○常用の圧力が82MPaの水素スタンドの技術基準を作成。(11月26日施行済み) ★小委(11/28):技術基準(省令)改正
		・燃料電池自動車の70MPa圧縮水素容器の技術基準の作成	○充填圧力が70MPaの燃料電池自動車の圧縮水素容器の技術基準を作成。 ★小委(1-2月):技術基準改正
	2)冷凍機等の冷媒の温暖化対策への対応	○地球温暖化係数が低い新冷媒の使用可能性の評価	○現在、使用されている地球温暖化係数の高いフロン系の冷媒に変えて、比較的地球温暖化係数の低い新冷媒(微燃性の冷媒や二酸化炭素)について、その安全性を評価。 ★小委(11/28):冷媒に関する最近の状況
	3)国際化への対応	○技術基準の国際整合化への対応	○燃料電池自動車用の圧縮水素容器の国際整合化への動きに併せ、国際基準について安全性評価を実施した上で、国内法令への取り込みを実施。 ★小委(11/28):gtrlに関する最近の状況 ★小委(1-2月):国際基準の国内法令への取込み
4)エネルギー問題への対応	○LPガス岩盤貯槽の保安検査基準の審議	○国家LPガス備蓄事業として、JOGMECが石油備蓄基地(倉敷11月末、波方来年3月末に完工予定。)を建設中であり、毎年、都道府県による保安検査を受検する必要があり、その際の保安検査基準について、適正かどうか評価。 ★小委(11/28):WGにおける審議について ★小委(3-4月):WGにおける評価結果の報告	

※検討項目によっては、必要に応じてWG又は意見聴取会等で審議する場合があります。その結果については、高圧ガス小委員会に報告することとします。